記 者 発 表 資 料
発表後の使用自由

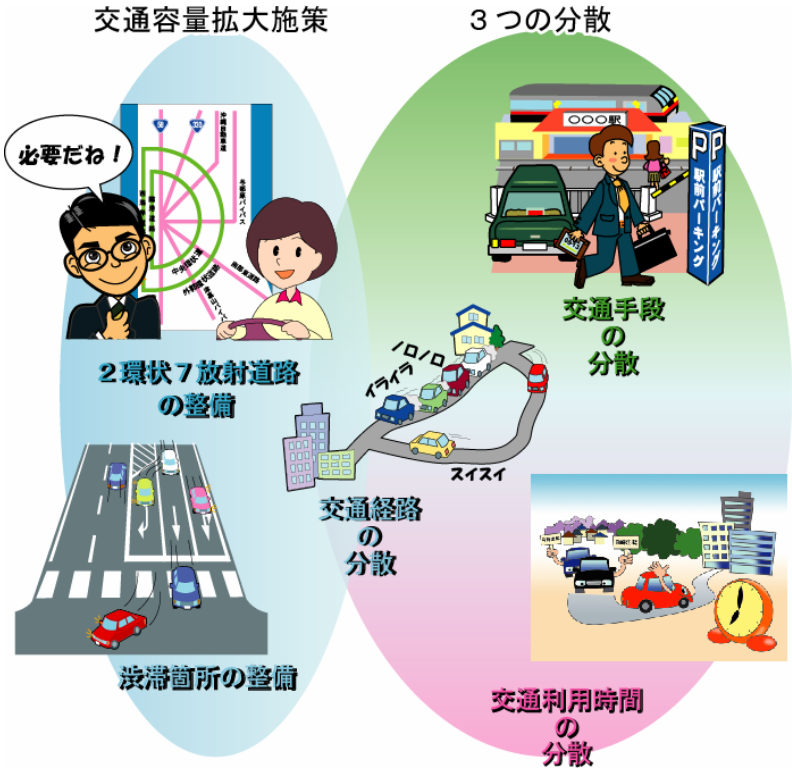
那覇都市圏の安全かつ円滑な交通の確保を目指して

那覇都市圏交通円滑化総合計画を策定しました。

・２環状７放射道路を整備し、「交通経路」、「交通手段」、「交通利用時間」の３つの分散を図ります。
・ 平成２３度までに主要渋滞ポイント２８箇所の内、２２箇所を渋滞緩和します。
・ 方面別に交通改善目標を定め、所要時間の短縮化を図ります

沖縄地方渋滞対策推進協議会では、那覇都市圏の安全かつ円滑な交通を確保するため、「道路整備」、「交通経路の分散」、「交通手段の分散」、「交通利用時間の分散」により通勤、通学時間帯の渋滞を緩和するとともに、交通の快適性・利便性の向上、交通に起因する環境負荷の軽減等を図ることで那覇都市圏のゆたかで暮らし良い地域の実現に資する「那覇都市圏交通円滑化総合計画」を策定しました。

今後、「都市圏交通円滑化総合計画」の実施に際して、沖縄の体系的な道路ネットワークの基本となる２環状７放射道路の整備等の交通容量拡大施策や、「交通経路」、「交通通手段」、「交通利用時間」の３つの分散を図るマルチモーダル施策や交通需要マネジメント施策を積極的、重点的に推進し、交通渋滞の解消・緩和を図ります。



平成１９年１１月２０日

問い合わせ	沖縄総合事務局	道路建設課	課長	金城　博	TEL098-866-0091
	沖　　縄　　県	道路街路課	課長	仲田文昭	TEL098-866-2390
	沖縄県警察本部	交通規制課	課長	渡具知辰彦	TEL098-862-0110

（参考資料）

那覇都市圏交通円滑化総合計画

● 那覇都市圏の交通の現状と課題

○ 一般道路の整備率が低い

那覇都市圏の一般道路の整備率は全国比の約１／３と低い。

	那覇都市圏				
	実延長（km）	改良延長（km）	改良率（%）	混雑度1.0未満延長（km）	整備率（%）
直轄国道	64.1	64.1	100.0	6.8	10.6
補助国道	9.9	9.7	98.0	2.2	22.2
主要地方道	44.2	42.5	96.2	9.1	20.6
一般県道	70.8	68.2	96.3	28.1	39.7
一般道路計	189.0	184.5	97.6	46.2	24.4

※ 改良率＝幅員 5.5m以上延長割る実延長
整備率＝混雑度 1.0 未満÷実延長

	沖縄県	全国	東京都
	整備率（%）	整備率（%）	整備率（%）
直轄国道	40.3	52.0	31.8
補助国道	87.5	64.6	64.8
主要地方道	73.7	58.1	32.6
一般県道	67.9	50.2	53.0
一般道路計	66.1	55.5	43.5

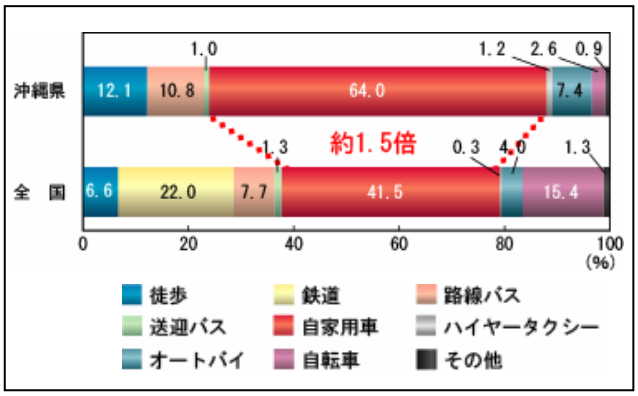
●那覇都市圏の道路整備状況

資料：道路交通センサス（H17）

○ 自家用車への依存率が高い

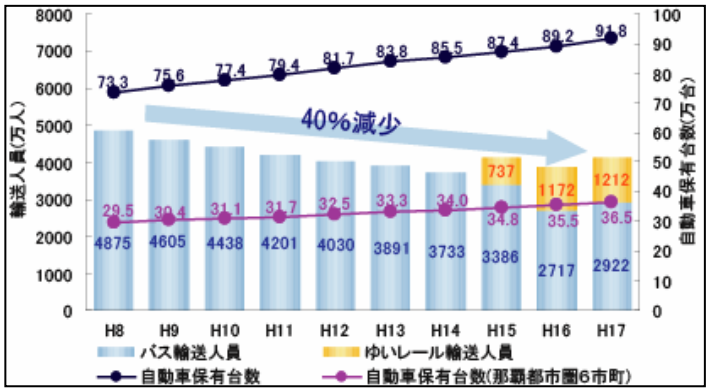
沖縄県は、通勤・通学における自動車依存率が高く、自家用車利用割合は約６割を占め、全国の約１．５倍。路線バス利用者は平成８年～１７年で４０%減少。

●通勤・通学移動手段別構成比



資料：国税調査（H12）

●公共交通による輸送人員と自動車保有台数の推移

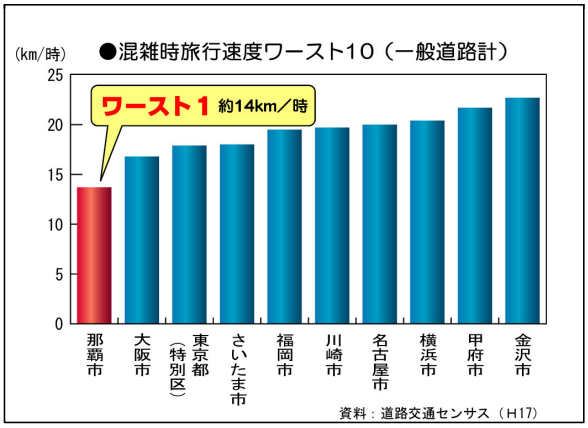


資料：沖縄県統計年鑑

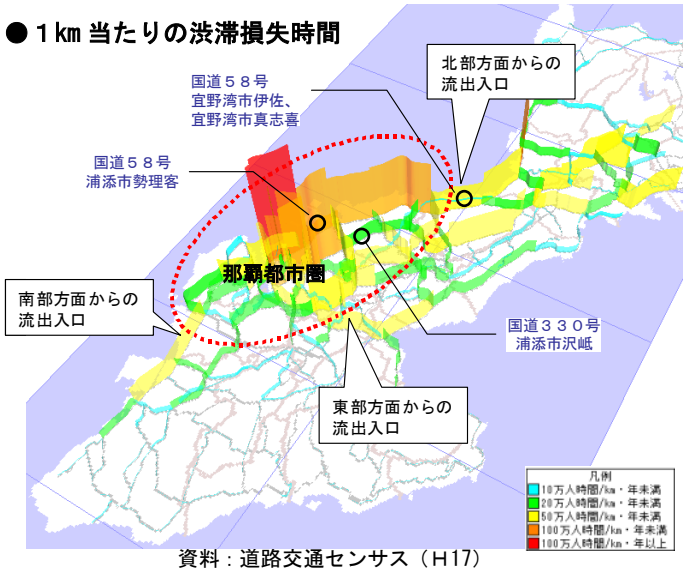
○ 交通渋滞の状況

那覇市内では、朝夕のピーク時の走行速度は大阪市、東京都（特別区）よりも遅く、全国でワースト１（約 14km／時）。

●混雑時旅行速度ワースト10（一般道路計）



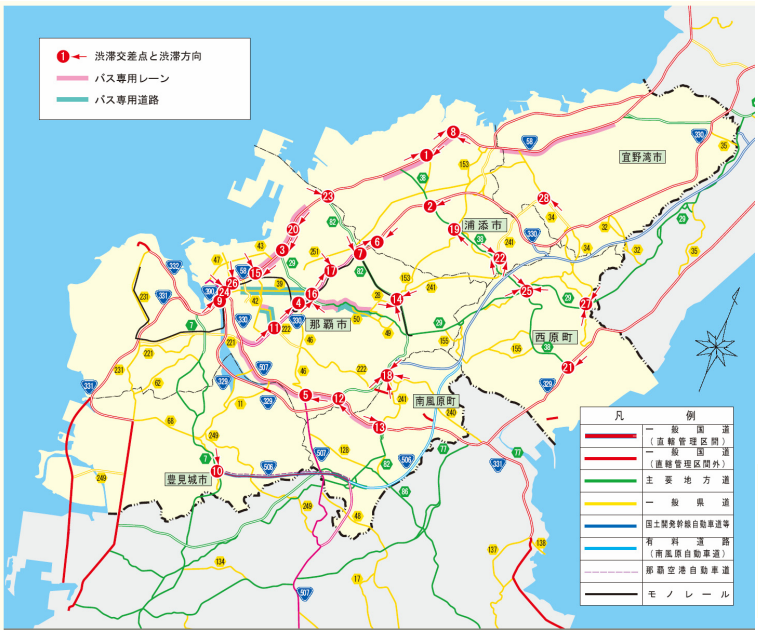
●１km 当たりの渋滞損失時間



資料：道路交通センサス（H17）

○ 主要渋滞ポイント

渋滞長や通過時間により定義された「主要渋滞ポイント」は、那覇都市圏に２８箇所あり、国道５８号、国道３３０号、国道３２９号に集中。



＜渋滞定義＞
ＤＩＤ内：最大渋滞長1,000m以上または最大通過時間10分以上
ＤＩＤ外：最大渋滞長　500m以上または最大通過時間　5分以上

■ 渋滞交差点＜交差点名・最大渋滞長・最大通過時間＞

❶ 城間	4,400m	24分	❷ 大平	3,700m	22分	❸ 泊	2,750m	16分	❹ 栄町	900m	10分
❺ 国場	2,100m	18分	❻ 沢岻	2,000m	7分	❼ 古島	1,750m	18分	❽ 港川	1,600m	10分
❾ 明治橋	1,400m	8分	❿ 中央公民館入口	1,300m	11分	⓫ 与儀	1,300m	26分	⓬ 上間	1,000m	14分
⓭ 兼城	950m	10分	⓮ 儀保	950m	13分	⓯ 久茂地	850m	15分	⓰ 安里	850m	11分
⓱ おもろまち	800m	18分	⓲ 新川	500m	9分	⓳ 安波茶	800m	13分	⓴ 上之屋	750m	11分
㉑ 小那覇	750m	16分	㉒ 西原入口	750m	11分	㉓ 安謝	700m	13分	㉔ 旭橋	600m	26分
㉕ 坂田	550m	5分	㉖ 泉崎	300m	19分	㉗ 上原	300m	6分	㉘ 真栄原	650m	14分

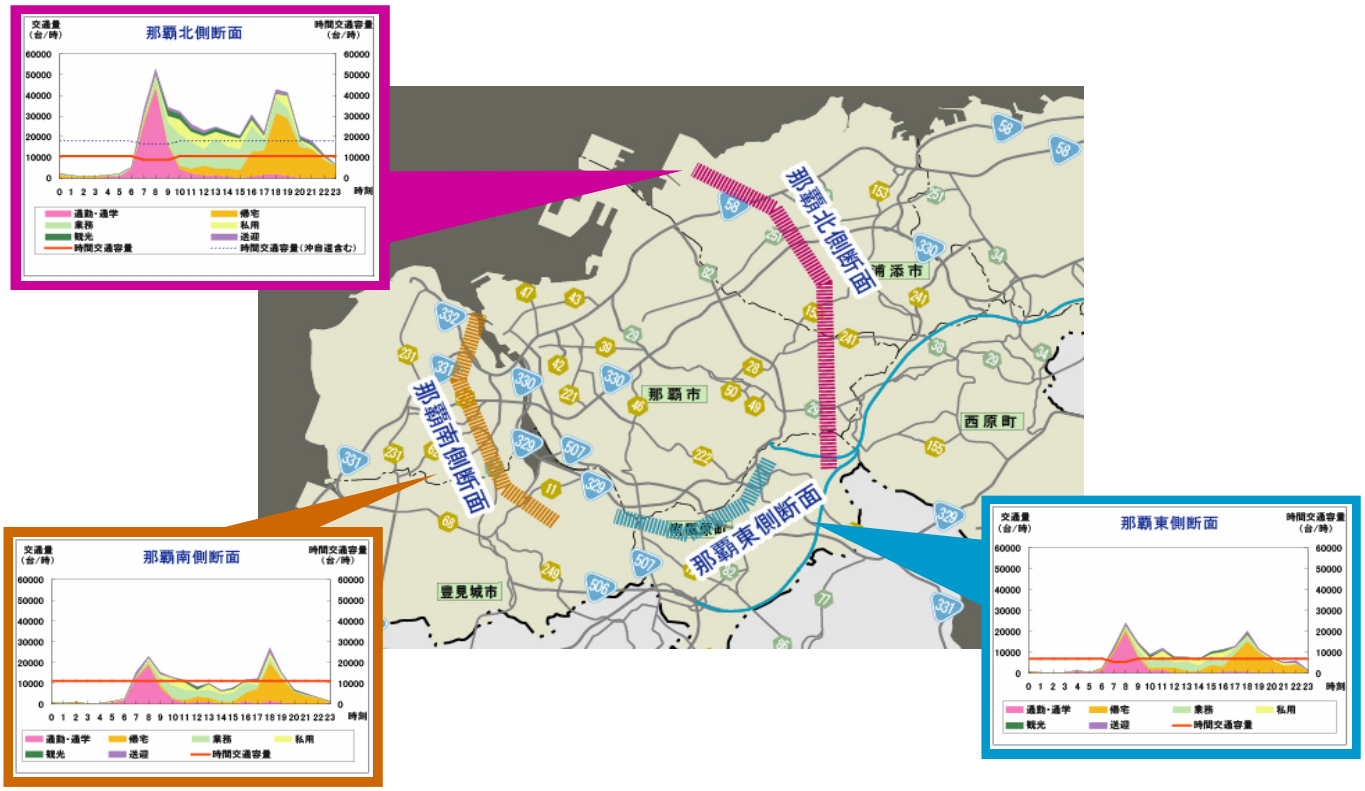
※　DID（人口集中地区）：市町村の区域内で人口密度が 4,000 人/k ㎡以上の基本単位区が互いに隣接して人口 5,000 人以上となる地区

●主要渋滞ポイント

○ 通勤・通学時間帯への交通量集中

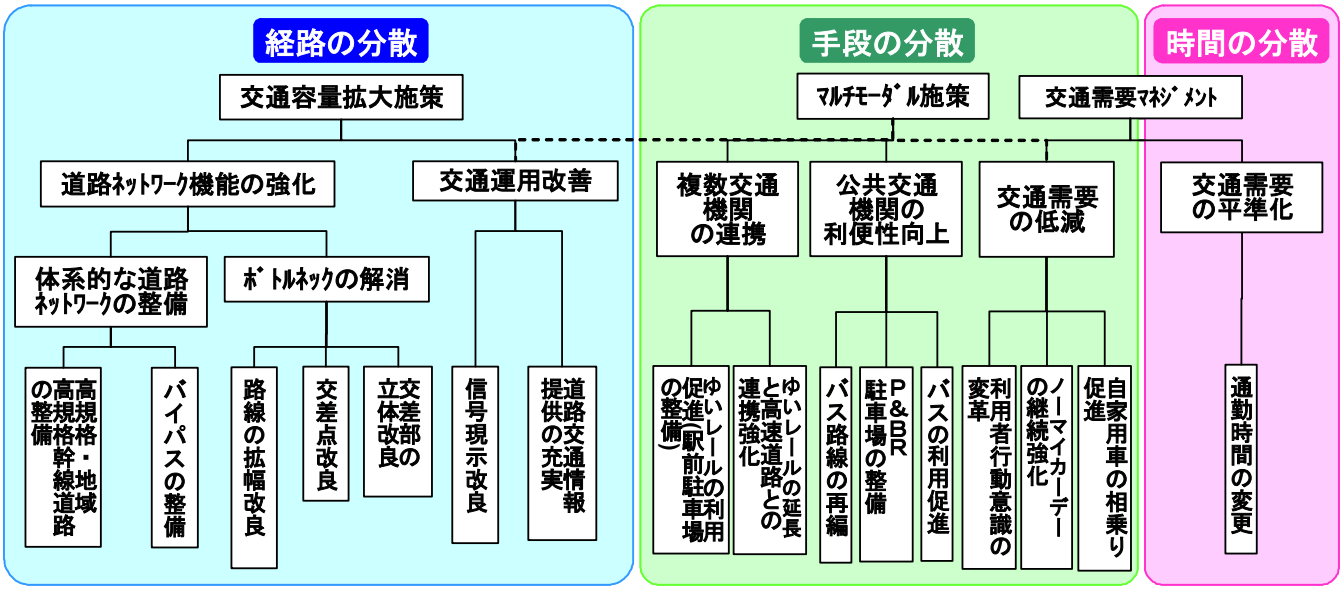
各断面では、通勤、通学時や帰宅時に交通量が集中、各断面の道路はパンク状態。

●那覇市への流入断面における時間帯別目的交通別交通容量と断面交通容量



● 交通円滑化施策

○交通円滑化施策の体系



○ 交通改善目標

平成２３度までに主要渋滞ポイント２８箇所の内、２２箇所を渋滞緩和します。

No.	主要渋滞ポイント
1	城間
2	大平
3	泊
4	栄町
5	国場
6	沢岻
7	古島
8	港川
9	明治橋
10	中央公民館入口
11	与儀
12	上間
13	兼城
14	儀保
15	久茂地
16	安里
17	おもろまち
18	新川
19	安波茶
20	上之屋
21	小那覇
22	西原入口
23	安謝
24	旭橋
25	坂田
26	泉崎
27	上原
28	真栄原

＜定義＞

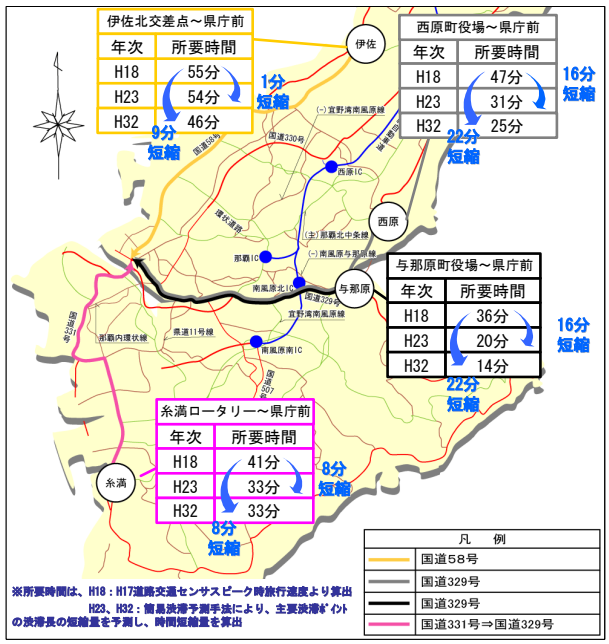
渋滞緩和：対策後、渋滞が解消する、もしくは渋滞の定義は超えているが、渋滞が緩和する

対策実施中：H23 年度までには完了しない

検　討　中：周辺整備の状況をふまえ今後対策を検討する

●主要渋滞ポイントにおける渋滞緩和を短期目標とする交差点

平成２３年度までに最大１６分、平成３２年度までに最大２２分の所要時間の短縮を目指します。



●方面別の所要時間短縮目標

● 容量拡大施策

○ 体系的な道路ネットワーク（２環状７放射）の整備

不足している放射道路を追加するとともに都心に集中する交通を分散導入させる環状道路を追加します。

●２環状７放射の道路整備

○ ボトルネックの解消

主要渋滞ポイントのうち、渋滞要因は以下の３つに分類、それぞれの要因にあった整備を実施することで渋滞の解消、緩和を図ります。

①交通容量の超過により渋滞が発生する交差点は１７箇所

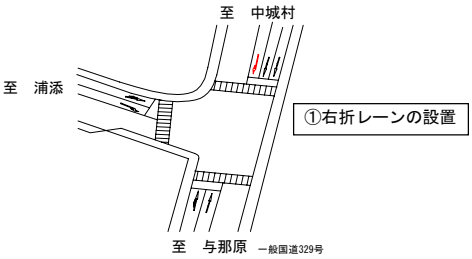
②右・左折車の滞留による後続車両の走行阻害により渋滞が発生する交差点は９箇所

A：交通容量超過の対策事業（例）

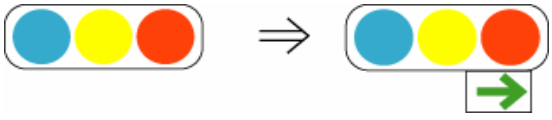
①真地久茂地線の整備
②豊見城東道路（那覇空港自動車道）の整備
③国道507号津嘉山バイパスの整備
④国道329号南風原バイパスの整備
⑤国道329号与那原バイパスの整備
⑥那覇東バイパスの整備（立体化）

B：右左折車の滞留による後続車両の交通阻害の対策事業（例）

①小那覇交差点改良（右折レーン設置　中城方向流入部）
②浦添西原線の整備（与那城交差点の改良含む）



③矢印信号の設置イメージ

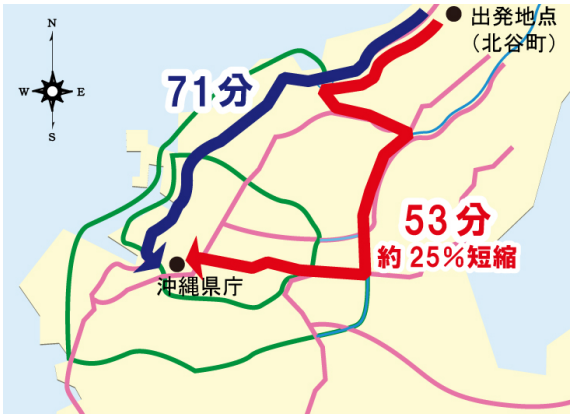


● ３つの分散

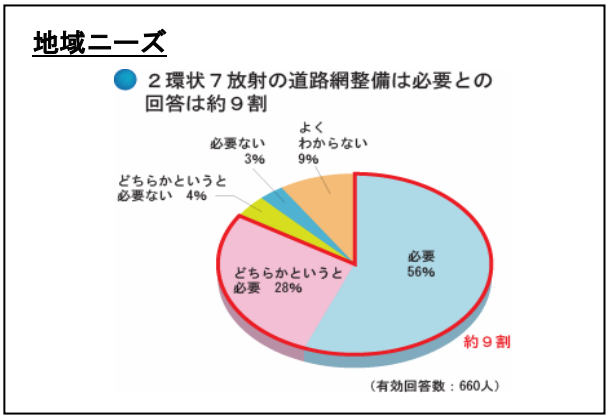
- 那覇都市圏の交通渋滞は、主要幹線道路や交差点に、また特定の交通手段に、あるいは特定の時間帯に交通が「集中」していることにより発生しています。
- 主要幹線道路や交差点に「集中」している交通を効果的なネットワークの整備等により経路の選択性を増やすことで、交通の分散（交通経路の分散）を図ります。
- 自動車に「集中」している交通手段をバスやモノレールなどの他の手段に分散（交通手段の分散）を図ります。
- 通勤・通学時や帰宅時に「集中」している交通を他の余裕のある時間帯に分散（交通利用時間の分散）を図ります。
- 「集中」している交通をこうした「分散」を図ることで、渋滞の解消、緩和を目指すことから、「３つの分散」をキーワードとして取り組んでいきます。

○ 交通経路の分散

２環状７放射道路が交通経路の分散を可能にします。

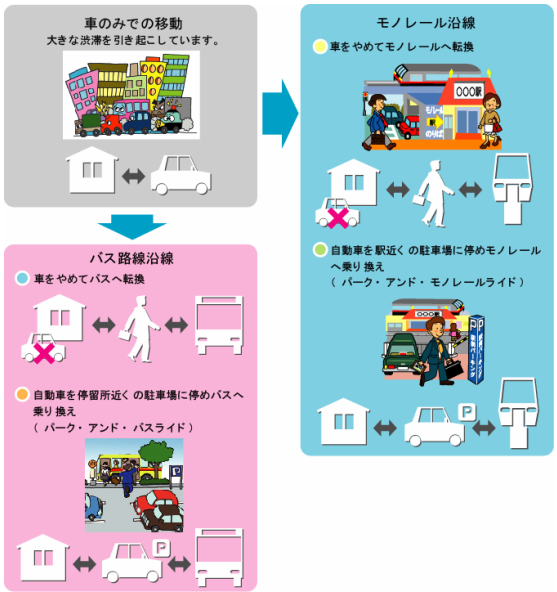


●経路変更イメージ
（北谷町⇒沖縄県庁）

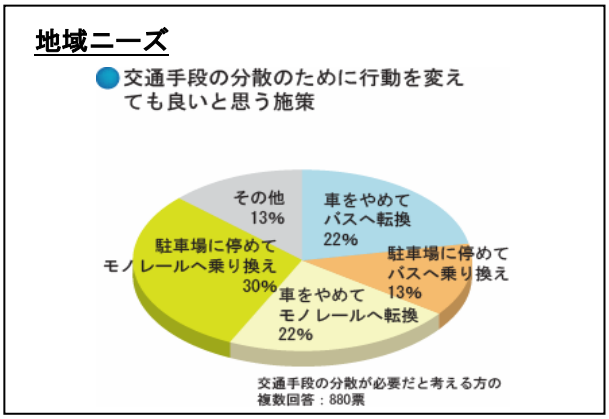


○ 交通手段の分散

渋滞に巻き込まれる自動車交通からバスやモノレールなどの公共交通機関へ移動手段を変える交通施策です。



●公共交通を利用した交通手段



●ﾊﾟｰｸｱﾝﾄﾞﾓﾉﾚｰﾙ駐車場による交通手段の分散

- 古島駅、安里駅、小禄駅の３箇所で実施
- 小禄駅は琉球ｼﾞｬｽｺ那覇店駐車場を利用したﾊﾟｰｸ&ﾗｲﾄﾞ

●基幹バスシステムの導入による交通手段の分散

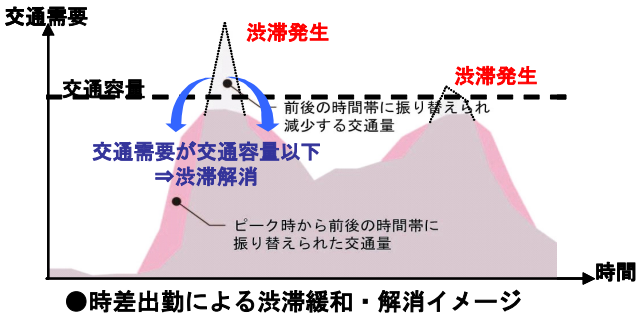
- 沖縄県では、基幹バス構想により定時性を確保できる公共交通システムの導入を検討

●地域循環バスの運行による交通手段の分散

- ⑩番牧志新都心線の運行開始。　平成 19 年 8 月 1 日より⑦番新都心循環線と統合
- 日曜日は国際通りﾄﾗﾝｼﾞｯﾄﾓｰﾙ内を通行する地域循環ﾊﾞｽとして運行

○ 交通利用時間の分散

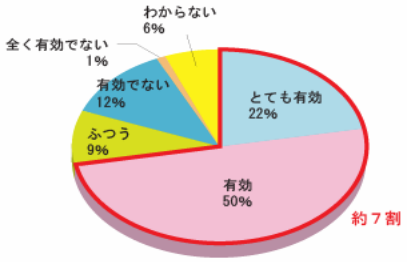
道路が渋滞している時間帯を避けて、その前後に移動時間帯を変える交通施策です。



●時差出勤による渋滞緩和・解消イメージ

地域ニーズ

●交通利用時間の分散は有効との回答は約７割



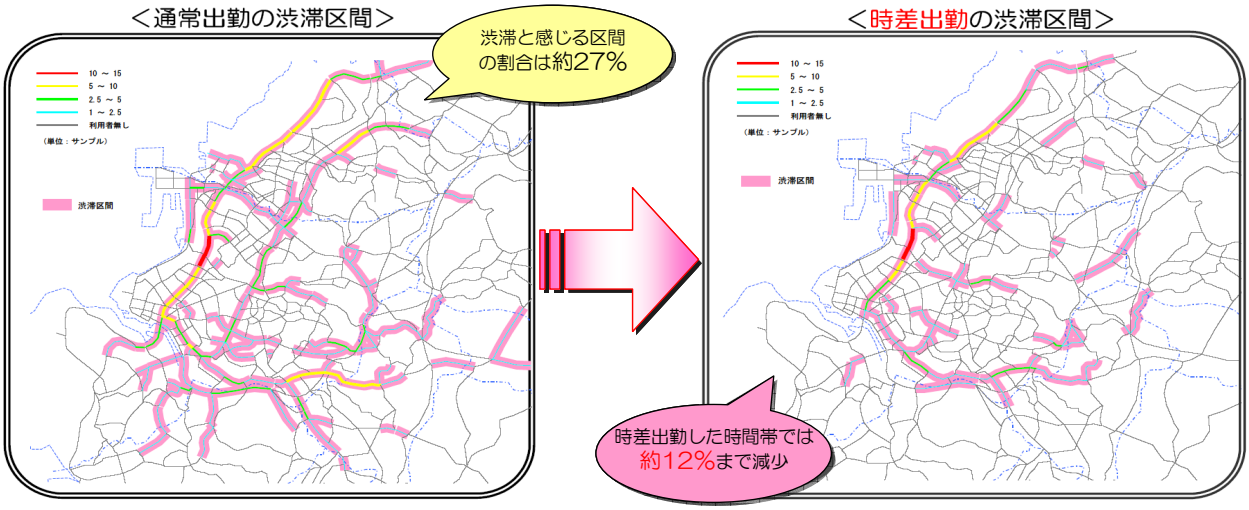
（有効回答数：657人）

プレ社会実験を実施　平成 15 年 3 月（沖縄県那覇市）

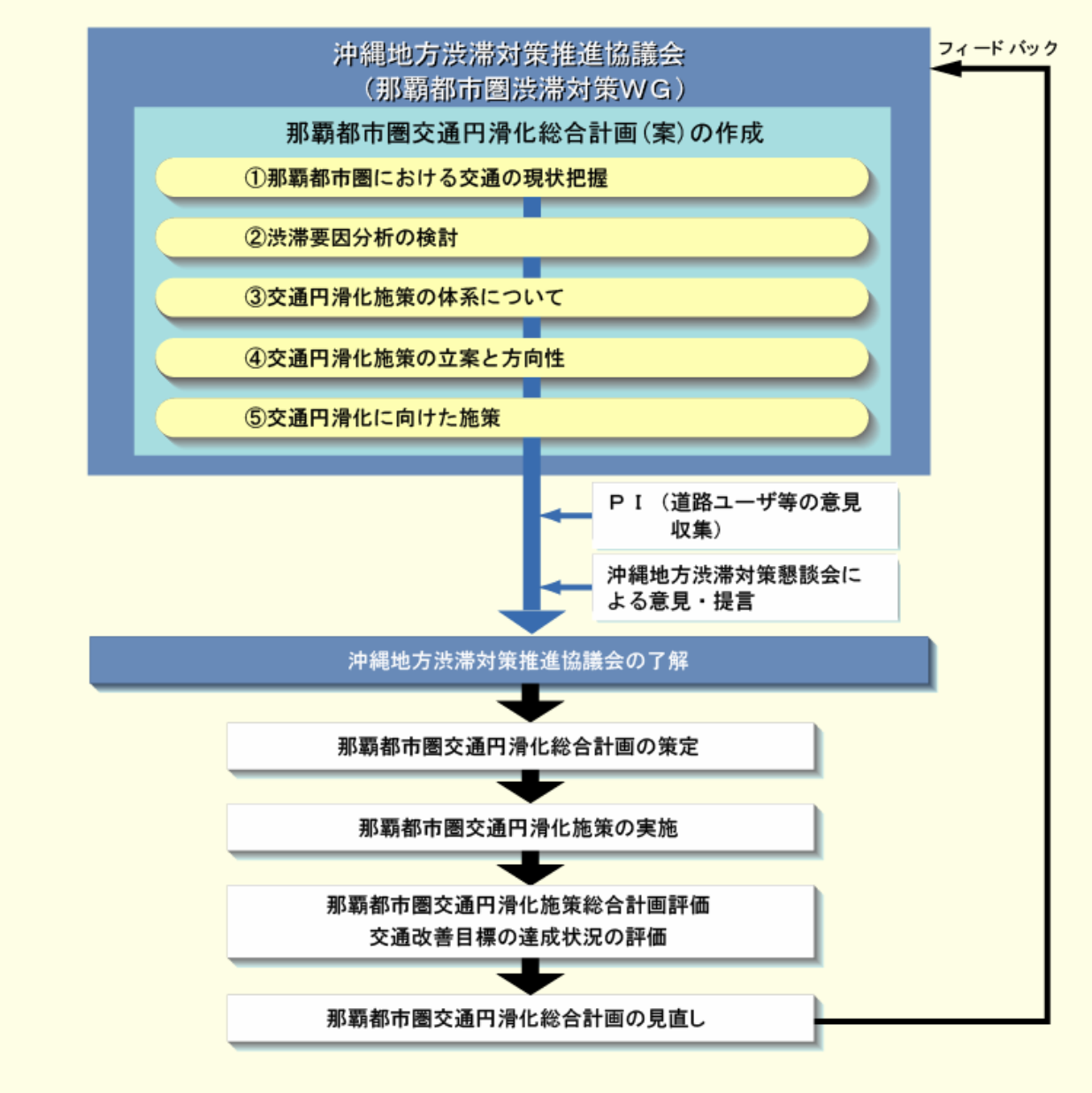
出　勤　時　間	約 40 分→約 33 分	約 7 分短縮
渋滞と感じる区間の割合	約 27%→約 12 %	半減

●参加モニター数95名
（民間5事業所65名＋県庁・那覇市役所30名）
通常出勤3日間　H15年3月 4日（火）～ 6日（木）
時差出勤3日間　H15年3月11日（火）～13日（木）

●プレ社会実験後の疑問点・意見
「実験の時期が悪かった（大学生の春休み、高校入試期間中）」
「もっと長いスパンで実験してみては」
「バスレーンの時間帯を避けた方がいい」



● 那覇都市圏交通円滑化総合計画策定の基本的な流れ



● 今後のソフト施策の展開

施策名	エリア	内　容
P&BR	宜野湾市宇地泊	① P&BR 駐車場の拡大 ② 広報エリアの選定 ③ 広報による利用者募集
TFP（MM）	浦添市 （国道 58 号沿線）	① 出前講座の開催 ② 行動変容を促すコミュニケーション ③ MM の効果検証、課題把握
カーフリーデー	那覇市中心部	① 那覇市長によるカーフリー宣言 ② 各種自転車試乗会 ③ 各種啓蒙イベント
基幹バス構想	沖縄本島中南部都市圏	国道 58 号、国道 329 号、国道 330 号など都市圏の骨格的な交通軸に基幹バスの導入を検討
時差出勤 沖縄総合事務局で検討中	沖縄本島中南部都市圏	① 時差出勤導入推進部会の設置 ② シンポジウムの開催